

令和4年度 病害虫発生予察情報

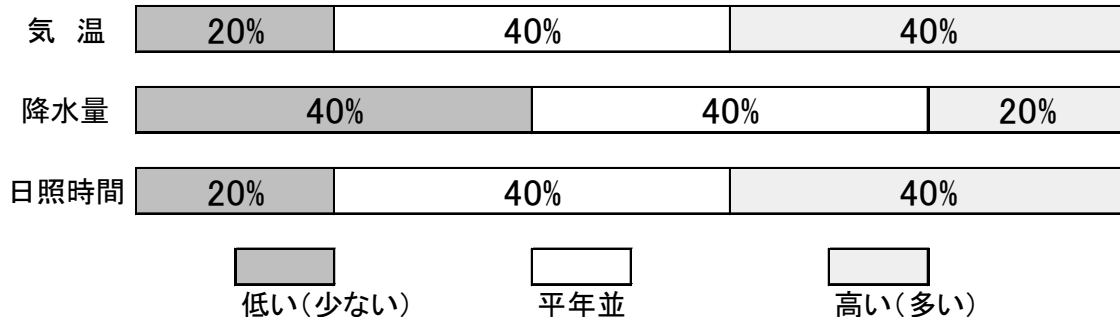
発生予報 第1号（4月）

令和4年4月1日
島根県

予報の概要

| 区分 | 農作物名 | 病害虫名 | 予想発生量 |
|------|--------|---------------|-----------|
| 普通作物 | ムギ | さび病類 | 平年並 |
| | | 赤かび病 | 平年並 |
| | | うどんこ病 | 平年並 |
| 果樹 | イネ | イヌシヅクムシ | やや多い |
| | ナシ | 黒斑病 | 平年並 |
| 野菜 | タマネギ | ハダニ類 | やや少ない～平年並 |
| | | ボトリチス属菌による葉枯れ | 平年並 |
| | | 白色疫病 | やや少ない |
| | イチゴ | べと病 | やや少ない |
| | | 腐敗病・軟腐病 | やや少ない |
| | | 灰色かび病 | 平年並 |
| | | うどんこ病 | 平年並 |
| | アブラムシ類 | やや少ない～平年並 | |
| | ハダニ類 | 平年並～やや多い | |

中国地方1か月予報(4月2日～5月1日・広島地方气象台3月31日発表)
 <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



A. 普通作物

1) ムギ

(1) さび病類

予報内容

発生地方 県内全域
 発生量 平年並

予報の根拠

- ①現在、発生を認めていない。
- ②ムギの生育は平年並みである。
- ③4月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(2) 赤かび病

予報内容

発生地方 県内全域
 発生量 平年並

予報の根拠

- ①現在、発生を認めていない。
- ②ムギの生育は平年並みである。
- ③4月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) うどんこ病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

①現在、発生を認めていない。

②ムギの生育は平年並みである。

③4月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

2) イネ

(1) イネミズゾウムシ

予報内容

発生地方 県内全域

発生時期 平年並

発生量 やや多い

予報の根拠

①予察灯による前年の新成虫の誘殺数は90頭（平年66.1頭）と、本年の越冬量は平年に比べてやや多いと考えられる。

②4月の気象は、本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県内二十世紀栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

①前年の発生量は平年並みである。

②ナシの生育は平年並みである。

③4月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生量 やや少ない～平年並

予報の根拠

①誘殺バンドによる越冬調査ではカンザワハダニの発生園率は0%（平年6.3%）、平均越冬虫数は0.0頭/バンド（平年0.2頭/バンド）と、発生量はやや少ない。

②4月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

C. 野菜

1) タマネギ

(1) ボトリチス属菌による葉枯れ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

①3月下旬の巡回調査では、発生ほ場率が10.0%（平年3.0%）、発病株率は0.2%（平年0.1%）と、発生量は平年並みである。

②タマネギの生育は、平年に比べてやや遅い。

③4月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 白色疫病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや少ない

予報の根拠

①3月下旬の巡回調査では、発生ほ場率が16.7%（平年24.2%）、発病株率は0.4%（平年1.6%）と、発生量は平年に比べてやや少ない。

②タマネギの生育は、平年に比べてやや遅い。

③4月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) ベと病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 3月下旬の巡回調査では、越冬罹病株の1万株当たりの発病株数は1.1株（平年6.5株）、発生ほ場率は23.3%（平年28.8%）と、発生量は平年に比べてやや少ない。
- ② タマネギの生育は、平年に比べてやや遅い。
- ③ 4月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(4) 腐敗病・軟腐病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 3月下旬の巡回調査では、発生ほ場率が20.0%（平年23.3%）、発病株率は0.1%（平年0.9%）と、発生量は平年に比べてやや少ない。
- ② タマネギの生育は、平年に比べてやや遅い。
- ③ 4月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

2) イチゴ

(1) 灰色かび病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 3月下旬の巡回調査では、発病葉率が0.7%（平年1.0%）、発病果率は0.1%（平年0.2%）と、発生量は平年並みである。
- ② 4月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) うどんこ病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 3月下旬の巡回調査では、発病葉率が0.0%（平年0.0%）、発病果率は0.1%（平年0.2%）と、発生量は平年並みである。
- ② 4月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) アブラムシ類（ワタアブラムシなど）

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない～平年並

予報の根拠

- ① 3月下旬の巡回調査では、発生ほ場率が11.1%（平年27.9%）、寄生株率は1.1%（平年5.4%）、寄生小葉率は0.1%（平年1.2%）と、発生量は平年に比べてやや少ない。
- ② 4月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

(4) ハダニ類（ナミハダニなど）

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 3月下旬の巡回調査では、発生ほ場率が66.7%（平年78.0%）、寄生株率は25.6%（平年36.5%）、寄生小葉率は17.4%（平年25.2%）と、発生量は平年並みである。
- ② 4月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

【参考となる事項】

1) 用語の基準と使用方法

(1) 平年値

病害虫の発生時期、発生量は過去10か年の平均とします。

(2) 平年値との比較

発生時期：平年値からの差を5段階で評価します。

| | | | | |
|--------|--------|---------------------|--------|--------|
| 早い | やや早い | 平年並 | やや遅い | 遅い |
| 6日以上早い | 3～5日早い | 平年値を中心として 前後2日以内 | 3～5日遅い | 6日以上遅い |

発生量：発生密度や発生面積の平年値からの差を5段階で評価します。

| | | | | |
|-----------|-----------|-------------------------|-----------|-----------|
| 少ない | やや少ない | 平年並 | やや多い | 多い |
| 外側10%の入る幅 | 外側20%の入る幅 | 平年値を中心として 40%の度数の入る幅 | 外側20%の入る幅 | 外側10%の入る幅 |

2) 病害虫防除所ホームページには、予察情報のほか、技術情報や各種のグラフ、写真を掲載しています。

防除所のアドレスは

https://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/

3) 最新の農薬登録状況

農林水産省ホームページには、農薬登録情報提供システムが掲載されています。

農林水産省農薬登録情報提供システムのアドレスは <https://pesticide.maff.go.jp/>

農薬の安全使用の徹底を！

- ・病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。
- ・農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。
- ・防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。

島根県病害虫防除所
(島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科)
〒693-0035 出雲市芦渡町2440
TEL 0853-22-6772
FAX 0853-24-3342
e-mail boujyo@pref.shimane.lg.jp